

国語 名古屋大学 文学部、教育学部、経済学部、理学部、医学部（医学科）

※理学部は現代文のみ

一 現代文

問一 a 独裁 b ザセツ c ヒ d ショウモウ e レイゾク
f コワダカ g 規格 h 営 i 精一杯 j 栄養

問二 A (1)人間の適性が均質だ（と考える人々）

(2)社会は均質な人々による単純な関係に基づいた組織で、権力はそうした組織へと人々を合理的に統合するものだと思える。（五七字）

B (1)人間の適性が多様だ（と考える人々）

(2)社会は多様な役割を果たす人々による複雑な関係からなるもので、権力はそうした関係を個別に調停するものだと思える。（五七字）

※A・Bは順不同。

問三

(1)社会科学における平等の考え方は、かつては人々を身分制から解放し、それぞれの個性を平等に尊重するものであったはずなのに、今日ではそのような人間の個性を無理やり平均化し、取り換え可能な存在と見なして隷属化するものと変わったということ。（一一六字）

(2)特定の視点 〽 とする思考

問四

人々は、人間を部品とする思想と一体である社会科学の平等の考え方に影響され、巨大組織の求める均質な人間像を人間の平等という思想と混同したから。（七〇字）

問五 イ

古文

問一 ① こ ② こ(こよ) ③ くれ ④ き

問二 ア 私は、今夜はおいとましてしまうつもりだよ。誰の所に忍んで来た男性であったのか、あなたの所に来たのではないかと、見
てはつきりさせようと思って来たのだ。

イ どうにかして、他の男性を通わせる大変けしからん女として私のことを聞きなさっているのを、宮様には、本当はそんな女で
はないと聞いて思い直していただきたいものだ。

問三 A 和泉式部の、着慣れて柔らかくなった直衣を着こなしている帥宮の姿を簾越しに見て、いつも逢うたびに新鮮に感じられるが、
今日は特にすばらしいと思う心情。

B 帥宮の、和泉式部のことを、所在ない日々の慰めにはなる女だろうと思っていたのに、源少将や治部卿を通わせているという
噂を聞き、とても軽薄な女だとはっきりする心情。

問四 (I) ためしに雨でも降ってほしい。私の家を通り過ぎて空を行く月の光のように、私の家から帰ろうとする宮様が、このままここ
にとどまってくださるのではないかと思うので。

(II) つまらないことに、空の月に誘われて私の身体はあなたの家から出て行くが、心はここから出て行くか、いや、出て行きはし
ない。あなたのもとにとどまっているのだ。

三 漢文

問一 a もとより b つひに（ついに） c しゆゆにして（しゆゆにして）

問二 雲が馬の群れのように山間から勢いよく湧き出して迫ってくるのが見えた。

問三 南山から下りてきた雲が、蘇軾の車に飛び入った。

問四 徽宗が、雲を集めるために作らせた袋で山々の雲を集めて献上させたので、「貢雲」と呼ばれたということ。

問五 天子の車の行く先々で、雲が入った袋から雲を放出すると、辺り一面に雲が充満して、山の中にいるかのような状態になったという事。

問六 特だに以て持ちて贈るべきのみならず、

問七 陶弘景の詩に雲は手に取って贈ることはできないとあり、当然だと思っていた。しかし雲を手で捕まえて籠に入れたという蘇軾の話や、雲を袋に詰めて徽宗に献上したという話からすれば、雲は手で掴んだり、人に贈ったり、さらに天子に献上したりすることもできることになる。これほど雲の捉え方に違いがあるのは面白いものだ。（二五〇字）